

令和7年度 第1回 燕市生涯学習推進協議会 会議録（要旨）

- 日 時 令和7年8月22日（金）午後1時30分～3時30分
- 会 場 燕市役所庁舎 1階 会議室101・102
- 出席委員 荻野秀和委員、小野塚美鈴委員、木村久栄委員、小林美智子委員、田辺美香子委員、田野正則委員、中島純委員、野嶋フミイ委員、福田智子委員、水野晶子委員、宮路美也子委員
- 欠席委員 柳原康浩委員
- 事務局 燕市教育委員会 小林教育長、岡部教育次長
社会教育課 石黒課長、遠藤課長補佐、浅野副参事、小林主事
- 報道機関 なし
- 傍聴者 なし
- 議 題 報告
- (1) 燕市生涯学習人材バンクの令和6年度実績について
協議
- (1) 第3次燕市生涯学習推進計画における令和6年度の指標達成状況について
- ① 基本目標1 学びの土台づくり
 - ② 基本目標2 だれもが学べる
 - ③ 基本目標3 学びを活かす
 - ④ 基本目標4 学びを支える

【以下、会議録（要旨）】

報告

(1) 燕市生涯学習人材バンクの令和6年度実績について

《事務局説明》

○委員

実績がないとのことであるが、問い合わせもなかったのか。問い合わせが実績に結び付いていないのか。

○事務局

手元に資料がなく、令和6年度に直接事務を行っていたわけではないので、正確なことは分からないが、この生涯学習人材バンクは市民からの問い合わせから申請まで繋がりやすい事業なので、実績がないということは問い合わせもほとんどないと思われる。

○委員

令和7年度においても、問い合わせも実績もないのか。

○事務局

令和7年度は、現時点で4件の実績がある。

○委員

問い合わせについて、しっかりと記録を残し、実績に結び付いていない問い合わせがあるのであれば、それがなぜなのか研究してほしい。また、周辺市町村と情報共有する等して、燕市だけでできないことがあるのなら広域で取り組むこともすべきである。

○委員

令和6年度は実績がなく、令和5年度は子育ての分野で1件のみの実績となっている。

ここまでの状況になったのは、コロナが原因ということもあるのかもしれないが、本当にいつからこのような実績となっているのかももう少し遡って調べていただきたい。

○委員

令和5年度は、子育てのメニューに興味のある人がたまたまいたけど、令和6年度はいなかったということではないかと思う。

○委員

この資料を作っているときには、実績が全くないという現状に気付いていたはず。実績がなかったねで終わってはいけない。

今どのような対策を講じようと考えているのか。

○事務局

コロナがきっかけで、この事業の存在自体が忘れられてしまっているのではないかと考えているので、まずはこの事業を立ち上げた当初の時と同じように全公民館へチラシやポスターを設置し、ホームページ等の媒体も活用して周知徹底を図ることで、利用も出てくるのではないかと考えている。

○委員

これは次回への宿題として、再度報告するように。

協議

(1) 第3次燕市生涯学習推進計画における令和6年度の指標達成状況について

① 基本目標1 学びの土台づくり

《事務局説明》

○委員

オンラインで理科の授業をやったと聞いているが、小学校の理科の授業はどのような内容を行っているのか。

○委員

宇宙で太陽系の勉強であったり、化学の実験等、いろいろな分野にわたっている。

○委員

中学校でオンラインの試験はあるのか。

○事務局

オンラインというか、パソコン上で解答を入力する試験がある。

○委員

新潟県は以前から成績が悪く、県も問題視していると聞いている。新潟県は運動はいい。

○委員

昨年度、小6・中3の全国学力テストを行った結果では、小6・中3ともに石川県が1位であった。その理由のひとつとして自らの関心に沿って粘り強く学習に取り組む「主体的な学び方」がある。また、対話を通してクラスメイトらとともに学ぶ「協働的な学び方」を重視した授業を受けた子どもたちの正答率が高いという傾向が見られた。本資料にもある通り、主体的な学びについては、大切にしていきたいと思う。

また、進捗に関する分析で、「子育て関連施設の整備が満足度向上に繋がったと考えられる」とあるが、これは何かヒアリングをした結果なのか。担当者の推測なのか。

○事務局

市民意識調査で子育て支援に対して満足と答えた人の割合になるが、なぜ満足と答えたのか、その根拠までをこの市民意識調査で拾える作りになっていないので、要因については、担当課の意見を聞き、ハレラテつばめの整備やこどもの森リニューアルが要因として「考えられる」という表現になっている。

○委員

進捗に関する要因分析で、「必要である」「求められている」という表現があるが、既に対策として動いているのか。

○事務局

この進捗に関する要因分析は、令和6年度の実績に対して各課が最近入力したものである。この所見に基づく具体的な何かをすでに行っているということではなく、現段階の課題認識と考えていただきたい。

○委員

一人当たりの年間貸出冊数が4.16冊となっているが、学校図書館の数字も含んでいるのか。図書館のものだけなのか。

○事務局

学校図書館の数値は含まれていない。燕図書館・吉田図書館・分水図書館の数値の合計になる。

○委員

学校図書館の数値は把握しているか。4.16冊よりも多いか少ないか分かるか。

○事務局

学校図書館については、学校教育課が所管となり手元に資料がないので、詳細な数字はご紹介できないが、小学校では4.16冊を上回っている。

○委員

今のご質問は図書館の貸出冊数が減少している数値を踏まえてのものかと思う。今は、大学生もあまり本を読まない。子ども読書活動を進めている中で、燕市は先駆けて電子図書を導入している。今、オーディオブック、所謂、ナレーション形式で聞く本が公共図書館でも流行っている。全国的にも広がっているので、このような取り組みを進めてデジタルブックにより、利用者層を広げていってもらえればよいと思う。

○委員

学校図書館の話が出ていたが、週に一度、子どもたちが図書館へ行って本を借りて読むということを行っており、島上小学校では学年ごとに設定した貸出冊数の目標に向け頑張っている。

また、読解力を高めるために週に3回、本を見て書き写す「視写」を行っている。

○委員

資料について、以前は単なる数字の羅列で見にくかったのだが、非常に見やすくなり、数値に対する要因分析も入っていて作るのが大変であったと思う。分かりやすい資料となり良いと思う。

○委員

「ハレラテつばめ」であるが、名称が「うさぎもちハレラテつばめ」となったと聞いている。

契約が終わればまた名称が変わるということになるのか。

○事務局

ネーミングライツ事業のことをおっしゃっていると思われるが、「ハレラテつばめ」という行政が決めた名前があって、その前に付ける企業名を入札により募集した結果、株式会社うさぎもちが落札し、「うさぎもちハレラテつばめ」となったもの。企業名が付くことで、宣伝効果が生まれる。

契約が終了し、また入札になれば「ハレラテつばめ」は変わらないが、他の企業名が付く可能性はある。

○委員

4ページの「読解力」育成プロジェクトの欄に「コグトレ」という言葉がある。どういう意味か。

○事務局

「コグトレ」(Cognitive Training の略称)とは、学習の土台となる認知機能を高めるトレーニングのことである。

「コグトレ」ができるように、令和5年度から全小・中学校に「コグトレ」の書籍を配付し、課題に取り組むことができるようにしている。

また、小学校1～2年生全児童と小学校3年生～中学校3年生特別支援学級在籍児童生徒が、「コグトレ」のオンライン版「コグトレオンライン」を一人一台端末から使用できるようにし、令和6年度からは、「コグトレオンライン」の対象を小学校3～6年生全児童に拡充した。各校では、週に1回のペースで、「コグトレ」に取り組んでいる。

○委員

「コグトレ」を簡単に言うと、頭の体操のようなものである。朝学校に来て、ゲームやクイズのようなものをタブレットを使ってやっている。タブレットを使用する大事な場面にもなっている。

○委員

令和4年度の基準値に対して令和9年度の間目標値への数値上昇がまちまちである。どのような考え方で中間目標値の設定となっているのか。

○事務局

計画期間が8年間となっており、最終目標値が計画に記載してある。中間目標値の設定の基本的な考えについては、最終目標を目指して計画期間で徐々に数値を上げていきたいという考えから、基準値と最終目標値の中間の数値としている。ただし、NRTの成績のように、来年度の目標は1教科達成すればよいというのは違うので、その指標の性質により、単純に中間をとっていないものもある。

② 基本目標2 だれもが学べる

《事務局説明》

○委員

方向性2にある「市民一人当たり」という表現は0歳児等も含む全市民の数になるのか。

○事務局

こちらの指標は「市民一人当たりのスポーツ施設の利用回数」になるので、スポーツ施設の利用回数を年齢関係なく燕市の全人口で割り返しているものになる。

○委員

「地域防災活動の参加者数」というのは、実人数と延べ人数とどちらか。

○事務局

延べ人数になる。

○委員

一人が2回参加したら2人としてカウントされるということか。

○事務局

その通りである。

○委員

燕市民75,000人分の7,368人だと割合として10%を切っている。最終目標値として6,500人は低いのではないか。もっと参加者が多くなるような仕組みが必要なのではないか。

○事務局

この数値は、地域防災活動へ参加していただいた方の人数であるが、それらの活動を通して全燕市民へ防災意識を定着させるという意味ではより多くの市民へ行き渡ってほしい。ただ、この目標値の数値として、10%を切っているという中、これが本当に適正なの

かというご意見をいただいたことは担当課にも伝えておく。

○委員

本計画は令和13年まで続くが、目標値の修正は柔軟にかけていくことと理解している。

「スポーツ施設の利用回数」で言えば、近年、学校の部活動が地域展開しているが、その利用件数は入っていないのではないか。そのあたりを修正するということは大いにあることなので、他の項目についても目標数値の見直しはありえることである。

○委員

つばめ目耕塾は、平日開催がほとんどなので、参加しにくい。休日等の開催も柔軟に検討すべきである。

○委員

「地域防災活動の参加者数」というのは、まちづくり協議会や自治会単位で行っている防災活動も参加者数に含まれているのか。

○事務局

まちづくり協議会や自治会の活動の参加者数は含まれていない。市の主催した防災事業の参加者数である。

○委員

中央公民館で日本画をやらせてもらっており、施設については非常に満足している。「中央公民館で実施する教養講座の満足度」が教養講座だけを対象にしたものであるが、通常の施設利用者の満足度も含めればもっと満足度が上がるのではないかと思う。いつもありがたく利用させていただいている。

③ 基本目標3 学びを活かす

《事務局説明》

○委員

生涯学習人材バンクについて、令和6年度は需要がなかったということであるが、76名も講師がいるので、ポスターやチラシ、ホームページへの掲載等、周知をしっかりとどのような講師がいるのか伝われば利用は出てくるのではないかと思う。

○委員

昨年度の3月に開催された社会教育委員の会議において、会議録を見ると公民館の活用が大切であると委員長が言っている。燕市社会教育課の異なる付属機関ではあるが、燕市ワンチームで取り組むべき課題であると思うので、公民館のさらなる活用を図ってほしい。

また、「イキイキまちづくり事業助成金」について、令和7年度の助成金の上限額が記載されているが、これまでも同等の助成を行ってきたものと思う。助成した後、その年度の審査だけでなく、助成対象団体がどのように活動しているか継続して事業を追っているか。

○事務局

申請をいただき、終わった後の結果もいただいているが、助成したお金はその後使って

いないという前提であることから、その後も事業を追っているということはしていない。

「チャレンジ事業」や「ステップアップ事業」等、それに見合った事業展開をしていただき、それに助成するが、その後については、これを活かしてさらなる活動を行っていただきたいということである。

○委員

もともと一回きりの事業ならそれでよいと思う。しかし、せっかく助成しているのであり、継続してこそ事業であると思う。継続できた理由等も聞くべきだと思う。

○事務局

助成事業としては、助成金をきちんと使っていたものとして継続して追っているということはないが、この助成金に関わらず「イキイキまちづくり団体」として活動を紹介し、団体活動の見える化を図っている。

助成事業としても継続して追っていった方が良いのではないかとのご意見をいただいたことについては、所管課にも伝えておく。

○委員

私たちの団体も以前申請したことがあるが、いろいろ言われ面倒だねということで2回くらいで申請を辞めた。お金をもらうのだから、いろいろとお話しがあるのは分かるが、もう少し市民が利用しやすいようにしてもらいたいと思う。

○委員

私もイキイキまちづくり事業助成金を利用したことがある。市役所も担当者が変わるので、その担当者によって融通が利く方とそうでない方など、いろいろである。

○委員

私も音楽団体に所属しており、ついこの間申請した。去年も申請した。公平性に欠けている部分があると感じた。私が申請した事業の実施時期は秋だったので、申請した6月時点ではまだ事業内容が詰まっていない部分があった。

そのような状況の中申請したが、もう既に申請を出している団体で助成金が満額になっていると言われた。

しかし、合格した5団体のうち来年の3月に事業を実施する団体が3団体もあった。私の申請した事業よりも遅く実施する事業が助成金を確保しており、早いもの勝ちになっている。

○事務局

イキイキまちづくり事業助成金には、コースが3種類ある。新規事業を支援するチャレンジ事業、事業の拡充等を支援するステップアップ事業、まちづくり協議会等が活用するコミュニティ事業である。それぞれ審査を行うが、継続して助成を受けている団体もいるし、事業の拡充があまりよく分からず落選してしまうものもある。

今ほどいただいたご意見も利用したい方、利用された方のご意見として担当課へ伝えておく。

④ 基本目標 4 学びを支える

《事務局説明》

○委員

文化会館大ホールの利用件数というのは、市民の利用件数か。

○事務局

貸館の利用件数なので、燕市民も燕市外の方も含む数値である。

○委員

私の勤務先は燕西蒲勤労者福祉サービスセンターというところになる。燕と弥彦に住所を持つ企業の勤労者の方が会員制で入会して福利厚生サービスを行っている団体である。会員になっている会社の数が830社、そのうち燕市が800社、弥彦村が30社くらいとなっている。

弥彦の企業には燕市の方も多くいらっしゃるのので、生涯学習人材バンクのPRについて燕市に協力できる部分があるのでないかと思う。

文化会館や史料館の事業のPRについても協力して行ってきたことがある。生涯学習人材バンクのチラシを見ていたが、登録したい方も利用したい方も結構いらっしゃるのではないかと聞いていた。ただ、利用や登録することのメリットが分かりにくい気がしたので、その辺はもう少し分かりやすくしても良いと思う。いずれにしても、有料にはなるが新聞の折り込みみたいな形でチラシの配布等も協力できるので、検討いただければと思う。

○委員

生涯学習人材バンクについて、自治体間連携はあるのか。

○事務局

新潟市との連携中枢都市圏の構想の中で、新潟市を中心とする複数の市と連携を図っているが、この生涯学習人材バンクについては、燕市を含め7市で連携している。

○委員

市だけで町村はないのか。

○事務局

新潟市との連携は新潟市を中心とする市のみであるが、先ほど話にも出た弥彦村とは別に定住自立圏という連携を行っているのので、この人材バンクの連携はまだしていないが、弥彦村と連携ができないということではない。

○委員

講師の情報は、インターネットでどこまで開示されているのか。

○事務局

講師の名前、教えることのできる内容、時間帯、報酬や費用弁償等について、表の一覧にして掲載している。個人情報にあたる電話番号や住所は載せていないので、利用にあたっては、市に連絡していただいて、市が講師と繋ぐ形になる。

○委員

生涯学習人材バンクについて、私も講師の登録をしている。市にも県にも登録している

がこれまで、1件の利用もない。また、別に絵本の読み聞かせボランティアを行っているが、訪問先の園から読み聞かせの訪問を人材バンクの実績とするために登録して良いかと聞かれた経緯もある。

より PR するためにチラシやポスターを作り配布するとのことだが、講師のできることをより詳しく記載し、分かりやすくしないと意味がないと思う。

閉会